

余暇活動を通じた若年性認知症の人との繋がり

長野県認知症介護指導者 相場恵太

キーワード: 余暇活動・若年性認知症・繋がり

活動の概要(活動の主体:法人)

【活動目的】

余暇活動を通じて、若年性認知症の人と繋がり、入居する認知症の人がその場、その時を楽しむことが出来る機会を作る

【活動内容】

若年性認知症の当事者の会が企画する余暇活動に入居者と参加し、当事者同士が交流する機会を作り、一人一人がその場、その時を楽しむことが出来る時間を作る。

活動のきっかけ、背景(指導者としての立場で)

所属するグループホームの施設長が若年性認知症当事者の会に参加している関係で、当事者の会より余暇活動に関する案内があった。

当事者同士の交流することで、ネットワークを構築することに繋がると考えたことから、入居者に参加の希望を確認し、3名の利用者と2名のスタッフで参加することになった。

活動の経過と成果

【活動の経過】

余暇活動としてボーリング大会を行うことになった。参加を希望した入居者には、当日の余暇活動の説明を行った。いつもと違う環境に行くため、入居者が混乱やストレスを感じないように注意して関わることに気をつけた。余暇活動は、若年性認知症の人と入居者が同じグループになるように編成し、当事者同士が交流できるよう心掛けた。慣れない場所もあり、トイレなどの移動の際、転倒することや場所がわからなくなってしまうこともあったため、なるべく入居者の近くにスタッフがいるようにし、随時対応できるよう心掛けた。

【活動の成果】

- ・初めて顔を合わせたときはぎこちない感じが見られたが、時間が進むにつれ、ハイタッチをする等の触れ合いが増えたり、積極的にコミュニケーションをとるようになり笑顔が増えるなど、その場、その時を楽しみ自分らしく過ごすことが出来ていると感じた。
- ・当初予定していた時間になっても続けたいという声が当事者の人達からあり、余暇活動を通じて「心のリハビリ」を行うが出来たと感じた。
- ・余暇活動を行う中で、近くにいた地域に住む子供連れのご家族と交流する機会があった。入居者の方は子供を見て、「可愛いな」と声を掛けたり、ご家族は余暇活動を行うなど、余暇活動を通じて地域住民に方と繋がりを持つ機会になった。

今後の展望

今回の活動を通じて、余暇活動を実践することで、認知症の人にとってその場、その時を楽しむ機会になること、今まで気づかなかった利用者のストレングスや普段見ることが出来た姿などを再確認することができた。また、施設外で余暇活動を実践することで、地域の人たちに認知症の人を知ってもらう機会に、認知症の人と地域の人達との関係性を構築するきっかけになることを学ぶことが出来た。今回の活動で得たものを参考に、今後も認知症の人がその場、その時を楽しむことができる活動を実践していきたい。

こちらの事例報告は、「認知症介護指導者養成研修等のアウトカム評価に関する調査研究事業報告書(令和2年度老人保健健康増進等事業)」の巻末資料【認知症介護指導者の活動事例】からの抜粋です。